

12.17.2025

暮らし、いのち
子どもたちの未来を
真ん中に

臨時国会終了。論点ずらしの連立合意。 いまこそ代議制を考えると。

12月17日 58日間の臨時国会が終わりました。

高市政権になって初めての国会審議。その間、公明党の歴史的な連立離脱、そして維新の連立与党入り。すでに石破政権時に与野党で合意がなされていたガソリン減税は実現することができましたが、あれだけ裏金問題の国民の批判をうけて、一年以上にわたり議論を積み上げた政治資金の問題は、維新が連立入りすると同時に放り出した結果、何の成果も得られないこととなりました。論点をずらすために維新が連立合意の条件に持ち出したのが、世論受けを狙った“年内の定数削減合意を目指す”という一文でした。

単なる経費削減のための議員定数削減には、私は市議時代から疑問を持っています。国会議員を45人削減らして削減できる予算は34億円、一方で、例えば先日立憲の後藤祐一議員が指摘したことです。補正予算で無駄に積まれた基金は、金利だけで年500億円を空費します。一人でも多くの議員が目目を光らせて、年間百兆円の予算から、無駄を洗い出したり、現場で有効に使える制度に調整していくことこそ、議員に期待されている仕事です。

政治資金に左右されない政治、政権交代可能な政治という目標のために実現した小選挙区制。その検証も無しに、なぜ減らした方が良いのかの根拠すらなく、単に民意の「議会なんて無駄」という不信感や苛立ちだけを根拠に提案されたのは、思いつきで一割削減、それも一年間の議論で合意を得られない場合は、積み上げた議論を無視して自動的に与党の言う通りにするという、代議制を冒涇するような法案です。特に、今回の削減案では、比例議席の削減割合が大きくなっていて、少数政党ほど大きな打撃を受けます。赤旗による裏金の追及も、公明党の地方議員に支えられたきめ細かい被災地支援提言も、チームみらいのようなデジタルへの見識も失われた国会が、今より豊かで効率的な政治でしょうか。

保守党の島田議員からは、高市総裁との電話で、“吉村さんが言ってる定数削減を本気でやるんですか？”と聞いたら“いやいや、目指すというだけです。しかもあの法案が掛けられる委員会の委員長は野党だから今年中に通るはずありません。自民党の議員で今年中に通ると思ってる人、一人もいませんよ”と。こういうことを言っていたとの証言さえています。世論受けを狙うポピュリズムの芝居の中で、真面目な議員が積み上げてきた議論がないがしろにされ、結局は、お金で動く政治が残される。国会をそんな場所にはしてはいけません。

佐々木ナオミのプロフィール

1969年 小田原市田島生まれ

国府津小学校→国府津中学校→県立西湘高等学校(第29回生)→和光大学人文学部文学科卒業
教育、子どもの人権、環境問題、農業、平和など、多岐にわたる市民活動を経て、

2007年 小田原市議会議員初当選。3期12年勤める。

厚生文教常任委員長、議会運営委員長を歴任。

2018年より保護司

2019年 神奈川県議会議員に初当選。

県西地区では初めての女性県議会議員。

2023年 神奈川県議会議員2期目当選。

2024年 立憲民主党神奈川県第17区総支部長

2024年 衆議院議員

地元事務所

〒250-0875

小田原市南鴨宮3-6-13

天野ビル1F西

phone. 0465-46-6831

fax. 0465-46-6857

国会事務所

〒100-8982

東京都千代田区永田町2-1-2

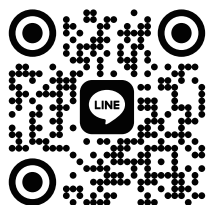
衆議院第二議員会館611号室

phone. 03-3508-7427

fax. 03-3508-3907

mail: team.naomi.sasaki@gmail.com

web: http://naomi-sasaki.com



公式 LINE



公式ホームページ



公式 Youtube